

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

秋田市長 穂 積 志

市町村名 (市町村コード)	秋田市 (05201)
地域名 (地域内農業集落名)	大戸百崎・上北手北西部地区 (大戸)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月22日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

本地区はほ場整備を実施する以前は、水稻を基幹作業とする稲作単作地域であり、平均経営面積は低く、個別経営農家が主体であった。現在はほ場整備事業に取り組み、法人への集積を図っている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

水稻を主作物としつつ、えだまめ、大豆、ダリア等の高収益作物の生産に取り組む。また、農地の集団化・連坦化が促進されることにより、より収益性の高い作物の作付けが導入可能となり、さらに、農業機械・資材等への過剰投資についても抑制され、高生産および低コスト農業を促進させる。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	71.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	71.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

ほ場整備実施中又は、実施予定地域の区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
法人等に利用権設定し、農地の集積を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構を活用し、農地を集積済み。地域内の農業を担う者が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地中間管理機構の機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への再配分を進めることができるよう、機構を通じて貸付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
ほ場整備事業の促進計画を策定済みであり、現在面工事中。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
法人での営農が基本となるが、新規就農希望者があれば、法人による雇用等により地域の担い手として確保する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域内で農作業の効率化を図るため、必要に応じて以下の取組を実施する。 ・薬剤散布作業については四ツ小屋スカイサービスに委託する。 ・水稲・大豆の出荷調製作業については(農)秋田市南カントリーエレベーター利用組合に委託する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他
【選択した上記の取組方針】									
② 有機農業の取組を進め、環境負荷低減を図る。									
③ 積極的にスマート農機を導入し、農作業の省力化を図る。									
④ えだまめ、大豆、ダリア等の高収益作物に取り組む。									
⑧ 担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。									